

第58回国際宇宙会議(IAC) ハイデラバード大会 の参加結果について



平成19年10月3日

宇宙航空研究開発機構(JAXA)
技術参与 的川 泰宣

国際宇宙会議 (IAC: International Astronautical Congress)

- 主催: 国際宇宙航行連盟 (International Astronautical Federation: IAF)
国際宇宙工学アカデミー (International Academy of Astronautics: IAA)
国際宇宙法学会 (International Institute of Space Law: IISL)
- 概要: 毎年秋季に開催し、世界の宇宙関係機関、大学、企業等の関係者が参加。学術研究成果や各国・機関の宇宙開発計画の発表・交流の場として、学生や展示参加を含め、全世界から2000名規模の参加を得る、名実共に世界最大の宇宙開発関連会議。多数の日本人が上記3学会の個人会員であると同時に、JAXAはIAFの法人会員 (IAAは法人会員登録手続き中)



<第58回 IAC ハイデラバード大会>

- (1) 期間: 平成18年9月24日(月)～28日(金) (5日間)
- (2) メイン会場: インド・ハイデラバード市 Hyderabad International Convention Centre
- (3) テーマ: “Touching Humanity: Space for Improving Quality of Life”
- (4) 参加者: 2600名 (うち Full Participants は1600名)
- (5) 発表論文数: 1200篇

大会第1日 9月24日(月)

Opening Ceremony (開会式)

Opening of the Exhibition (展示施設オープン)

Plenary: Heads of Agencies (宇宙機関長パネル)



TECHNICAL SESSIONS (学術セッション)

有人宇宙活動に関する学術セッション(JAXA白木理事登壇)

日時: 9月24日(月) 15:20-18:20

テーマ: Human Space Endeavour :Overview

概要: ISSを始めとする有人宇宙活動の進捗と今後の見通しについて、各宇宙機関よりプレゼンテーションが行われた。JAXAのプレゼンテーションに関しては、当初予定よりISSの建設スケジュールが遅れているなかで、どのように政府、国民の支持をつなぎとめているのか、について質疑応答がなされた。

Highlight Lecture: Earth-Threatening Asteroids (地球の脅威となる小惑星)

Welcome Reception (歓迎レセプション)



Plenary-Heads of Agencies : 宇宙機関長パネル (1/2)

日時: 9月24日(月) 13:15-15:15

概要: 開催初日にあたる24日に、CSA、ESA、NASA、ISRO、FSA、CNSA、JAXA、CNESの各機関長出席のもと、質疑応答形式により各々の活動状況及び今後の計画について発表があった。

○主な発言は以下のとおり。

【CSA ボワヴェール長官】

- ・レーダーサット計画は産業化やカナダ政府だけでは継続が困難。国際協力により進める。
- ・低軌道以遠に向けた国際協力の進展について言及。

【ESA ドーダン長官】

- ・気候変動予測は宇宙はツールとして貢献できる。地球観測の国際協力を進めていく。
- ・宇宙機関との多岐にわたる国際協力の推進状況を紹介。

【NASA グリフィン長官】

- ・ISSをベースに、月、火星の探査を進める。
- ・ISSは国際協力の賜物。今後の探査のための必要なステップ(ツール)として位置づけている。

【ISRO ナイア総裁】

- ・新ビジョンでは地球観測とデータシェアリング、再利用宇宙機、探査(特に有人)を強調。
- ・ロケットの低コスト化への取り組みを紹介。

Plenary-Heads of Agencies : 宇宙機関長パネル (2/2)

【FSA ペルミーノフ長官】

- ・現在政府部内で調整段階にある、月・火星を視野に入れた2040年までの長期ビジョンを紹介。
- ・宇宙旅行について、訓練機関や訓練内容を紹介。低価格化については、既存の機体を利用している間は難しいと発言。

【CNSA 孫局長】

- ・中国は有人の月面探査計画はまだないが将来的にはある。JAXAの「かぐや」の成功をお祝いする。「嫦娥」は順調で年内に打ち上げる予定。
- ・防災に資する衛星を来年3機打ち上げ、8機のコンステレーションを組む予定で国際協力を期待。データの共有を進めていきたい。

【JAXA 立川理事長】

- ・「かぐや」の状況を報告しつつ、月探査に係るJAXAの取り組みを紹介。
- ・宇宙プログラムを進めていくにあたって国民の理解と支持を得るための具体的取り組みをタウンミーティング等の事例も踏まえつつ紹介。

【CNES デスカタ長官】

- ・DEMETERなどのマイクロ衛星を始めとする小型衛星への取り組みを紹介。
- ・通信衛星と地上システムによるコスパス・サーサット等のセキュリティー面での国際貢献を紹介。

* 各長官によるプレゼンテーションの後に、会場参加者からの質問を受け付けた。質問をした人の多くは、大学生を含むインドの若いエンジニアたちで、グリフィン長官とナイア総裁に集中した。

大会第2日 9月25日(火)

Late Breaking News: The Martian Dust Storm(火星の砂嵐)

Plenary: 50th Anniversary of the Space Age(宇宙時代50周年)

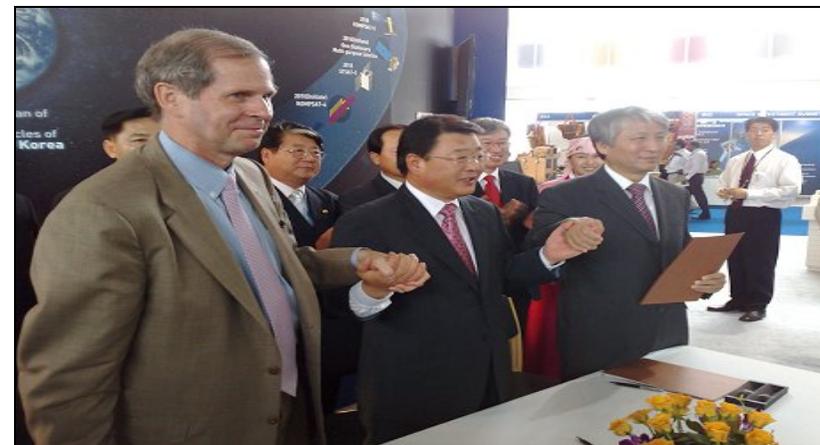
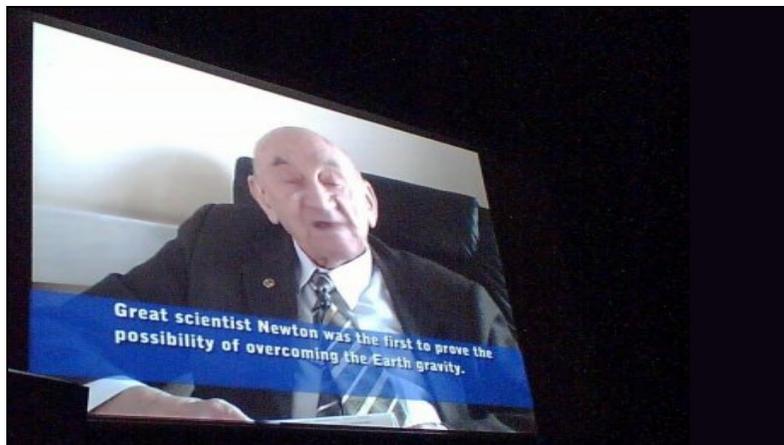
TECHNICAL SESSIONS(学術セッション)

Signing Ceremony: Daejeong City for 60th IAC in Korea

(第60回IAC大会:韓国太田市)

Late Breaking News: The Google Lunar X-Prize(グーグルによる月Xプライズ)

Plenary: The United Nations and Space(国連と宇宙)



大会第3日 9月26日(水)

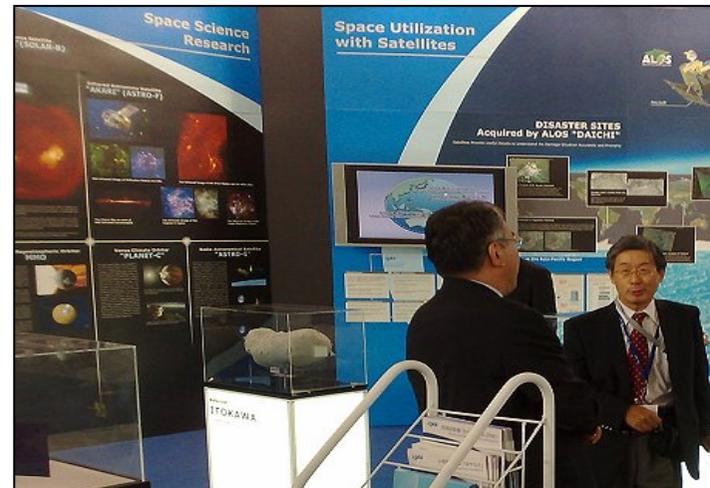
Late Breaking News: Recent Space Shuttle Damage(最近のスペースシャトルの損傷)
Plenary: The Role of Government Procurement(政府調達役割)

TECHNICAL SESSIONS(学術セッション)

Young Professionals Programme(青少年プロフェッショナルプログラム)
Plenary: Lunar and Planetary Missions(月・惑星ミッション)

TECHNICAL SESSIONS(学術セッション)

Highlight Lecture: Earth Observation Systems in Asia(アジアの地球観測システム)



Plenary / Highlight Lecture on Wednesday

アジアの地球観測に関する Highlight Lecture ([JAXA小沢執行役登壇](#))

日 時: 9月26日(水) 18:30-19:30

テーマ: アジアの地球観測システム ～アジア諸国における国際協力～

概要: アジア諸国の地球観測プログラムとこの地域における国際協力の取組みについて、ALOS画像を交えながら紹介。アジア諸国において近年地球観測活動が盛んになってきている背景、地球環境問題や自然災害のアジアへの影響と地域協力の様々な枠組み・活動について触れ、地域における具体的協力取組みとしてセンチネルアジアについてもビデオを用いて紹介。

探査に関する Plenary Panel ([JAXA国際部 内富登壇](#))

日 時: 9月26日(水) 14:10-15:10

テーマ: GES及び将来の月・惑星ミッションの進捗状況

概要: NASA, ESA, JAXA, CNSA, DLR, ASI, BNSC, ISRO, COSPARから、各国・各機関の月・惑星ミッションと今後のビジョンを紹介。また人類共通の利益を念頭におき、また時間的・予算的な兼ね合いからも国際協力で進めていく方針をそれぞれが説明。DLR, ASI, BNSCは機関長が参加し、会場からも積極的な質疑応答があった。

大会第4日 9月27日(木)

Late Breaking News:

KAGUYA on its Way to the Moon 一月への途上にある「かぐや」ー
（「かぐや」科学主任 加藤学登壇）

Plenary: New Space Industry Actors in the Global Market
（世界市場における新しい宇宙産業）

TECHNICAL SESSIONS (学術セッション)

Signing Ceremony for 59th IAC-Glasgow in Scotland
（第59回IAC大会：スコットランド グラスゴー市）

16th Manfred Lachs Space Law Moot Competition (IISL)
at Nalsar University of Law, Hyderabad
（ハイデラバード、ナルサー法科大学における第16回国際宇宙法模擬裁判）

TECHNICAL SESSIONS (学術セッション)

Interactive Sessions : Part I
Interactive Lecture Session
Interactive Sessions
Glasgow Cocktail



大会第5日 9月28日(金)

Late Breaking News: Space Tourism project of EADS Astrium
(EADSアストリウム社による宇宙旅行プロジェクト)
Plenary: Space Technology for Poverty Alleviation (貧困低減のための宇宙技術)

TECHNICAL SESSIONS (学術セッション)

Highlight Lecture: The International Space Station (国際宇宙ステーション)

TECHNICAL SESSIONS (学術セッション)

Plenary: Public Day (一般公開日)
Highlight Lecture: Future Directions for Space (宇宙の未来の方向性)
Closing Ceremony (閉会式)



広報・教育活動

①展示

JAXAブースを開設。かぐや・イトカワ・WINDS の模型及びH-IIBロケット・HTV・JEM模型を展示。JAXAブースには、5日間の会期中、約3500人の来場者。また、現地メディアの取材等にも対応。主催者による展示ブースの審査が実施され、JAXAは最優秀デザイン賞を受賞。

②教育活動

ESA、NASA、CNES、CSA の教育担当部と共にIAC学生参加プログラムを共催。8月末にハイデラバード市内で発生した爆破事件を受け、日本からの学生派遣は今年中止。国際宇宙教育会議 (ISEB) 代表者会議に出席。共同プロジェクトの進捗状況を確認。CSAが次期 ISEB 議長に就任することに合意。任期は第59回 IAC までの1年間。

③第16回国際宇宙法模擬裁判

国際宇宙法模擬裁判 (Manfred Lachs Space Law Moot Court) は、1992年 (アジア地区の参加実現は2000年) より、国際宇宙法学会 (IISL) が運営。

北米、欧州、アジア・太平洋の3地域予選を勝ち抜いた学生による最終戦がIAC期間中に開催。

国際司法裁判所判事により審査。小和田判事も列席。

今年は、Nalsar 法科大学にて、商業有人飛行中の事故発生を想定した事例が競われ、北米地域代表のGeorge Washington 大学 (US) が優勝。JAXA が財政的支援を行っているアジア・太平洋地域の代表は、団体戦では2位。個人としての Best Presentation 賞を獲得。

なお、4月に行われた地域予選では、北米9大学、ヨーロッパ4大学、アジア・太平洋からは日本の4大学を含む39大学が参加。NASA、ESA、JAXAが各地域代表学生のIAC派遣に財政的支援。